

～ **令和2年度 予算が決まりました** ～

☆体育奨励・疾病予防事業などの保健事業の充実

☆原則自己負担なしの健康診断の提供

☆本人・家族出産育児一時金付加金3万円給付の施行

☆ICTを活用した保健指導と簡易な郵便検診の提供

☆医療給付費の適正化と冗費の削減

☆介護保険料率の引き下げ

- ・ 一般勘定収入支出予算額 10億7千100万円
- ・ 被保険者一人当たり 247,867円
- ・ 平均年齢 (男子 29.90歳・女子 33.93歳・計 33.47歳)
- ・ 扶養率 0.07人

保険料率

一般保険料率 88.7/1,000

調整保険料率 1.3/1,000

介護保険料率 20/1,000

iDA健康保険組合の令和2年度予算は、組合会において承認され近畿厚生局に提出し正式に決定いたしました。

一般勘定の総予算規模は、対前年比1億7千827万円増の10億7千100万円となり増額(20.64%)の予算になりました。

これは、前年度予算が平成31年4月1日設立のため、徴収対象の月数が11カ月であったことと、被保険者数(対前年度比636人増)や標準報酬月額増加(2,156円増)が見られたのが主な要因です。

また、全般的な情勢としては、後期高齢者支援金の負担が完全総報酬制となり、本人における医療費が一人当たり 6,042 円と他業種と比較して低く、併せて前期高齢者一人当たり給付費が 236,000 円と低く設立以来安定していることが、医療給付費及び前期高齢者納付金を引き下げる要因となっています。

さて、令和 2 年度の中央社会保険医療協議会による診療報酬の改定では、本年 4 月から医療機関に支払う診療報酬が本体で 0.55% 引き上げられますが、薬価等はマイナス 1.01% 引き下げられます。

しかし、今回の改定は前回に比べて引下げ幅が小さく、医療給付費への負担減少につながる財政影響はないものと思われます。

このような状況の下、当組合の令和 2 年度予算編成に際しましては、健保組合本来のメリットである保健事業のさらなる充実を図り、予算配分を令和 1 年度はウエートが高かった保険給付費から保健事業費（支出総額：予算構成比 8.78%）にシフトさせました。

保健事業費は、対前年度比 3,766 万円増の 9,406 万円となりました。

健康づくりにつながる「K-ポイントシステム」を活用した体育奨励と原則自己負担なしの健康診断や ICT を活用した保健師による保健指導、簡易な郵便検診の導入、「心の元気サポート電話相談」を行う疾病予防費の充実を図りました。

また、65 歳以上の皆さまには健康意識の啓蒙を図る保健指導宣伝費のとして、健康機関紙「ゆるりら」の年 4 回の配布を行います。

以上のような健康づくり、疾病予防対策等が中長期的にみた場合の財政健全化につながるものと思われます。

また、次世代育成の一環として令和 2 年 4 月より「本人・家族出産育児一時金付加金」の導入と併せ育児図書配布を行います。

なお、介護勘定については、介護納付金の総報酬制が確立したものの、高齢化進展により政府の「1 人当たり負担基準額」が対前年度で 3,067 円の増加となり介護納付金も増加していることから、介護保険料率設定は 1% 引き下げの 20% の実施にとどまりました。

当組合では、以上のような保健事業の展開の他にレセプトや柔整療養費のチェック強化や無資格受診者への返還請求など冗費削減へ向け一層の努力をしております。

また、プライバシー保護については、政府のマイナンバー制度推進のもとでより徹底を図っていく所存です。

今後とも、iDA 健康保険組合の事業運営へのご理解とご協力をいただきますよう、重ねてお願い申し上げます。